九州・沖縄作曲家協会

音楽ジャーナル

2017.02.20 発行

発行責任者：田村徹／熊本陵平

目次

● 嶺南国際現代音楽祭に参加して（田村　徹）

● 嶺南国際現代音楽祭に出品して（熊本　陵平）

● ギルド・ムジカ九州　第1回演奏会「オンドマルトノ・ルネッサンス」を終えて　（原田　大志）

九州・沖縄作曲家協会ジャーナル発刊について

常々考えていたことですが、多くの会員の音楽論や、会員やその周辺の音楽情報を知る機会があれば、より会の発展に資するのではないか、そのための手段として、紙面を作り発信しよう（スマホ、パソコンでの情報伝達は会員のデジタルデバイスがあり現時点での情報の共有はできない）ということになり数人の会員と相談して、試しの紙面を作りました。情報誌がうまく機能すれば、協会の会則に賛助会員の条文を作り（賛助会員に音楽情報を提供し会を支援してもらう）会の財政に寄与できるのではないか。等々考えています。

田村　徹

嶺南国際現代音楽祭に参加して

田村　徹

かねてより気になっていた韓国との交流のありかたについて、会長の立場で確認のためこのたび嶺南作曲家協会会長との会談を申し入れ、テグに赴きましたのでその内容について報告します。

スケジュール

- 11月3日午後4時テグ空港着4時30分迎えの車にてホテル着
- 夜7時30分作品演奏会を鑑賞
- 夜10時打ち上げ参加
- 11月4日11時30分より嶺南作曲家協会会長と会談（日・韓国際交流担当2人および通訳3人同席）

会談内容

❶顔と顔を合わせてお互いの立場を話し合うことの重要性を確認。

❷九州・沖縄作曲家協会が1979年に設立されたこと、嶺南作曲家協会が1990年に設立されたこと1991年に長崎にて九州沖縄作曲家協会現代音楽祭に嶺南作曲家協会の会長ウ・ションオク氏参加、以来両協会の交流が始まったことの確認。

❸東アジア作曲家協会が2002年に設立されたこと。東アジア作曲家協会会則を確認しあいこの会が現在では会則通り運営されていないことを確認。韓国のテグに東アジア作曲家協会が嶺南作曲家協会とは別に存在することを認識し九州沖縄作曲家協会は今までの友好的関係を踏まえ嶺南作曲家協会との関係を持続する。

❹今までの九州・沖縄作曲家協会と嶺南作曲家協会の永い交流の歴史を踏まえ、より発展的な関係を深めることで合意。（嶺南作曲家協会会員数約50名はテグという地域に集中して存在、世代別、またはそれを超え随時集まって意識を高めあっている模様、九州沖縄という広域に会員が存在するのとは意志の疎通の仕方が違う）

発展的関係を深めるとは

会長間の私見として次のような希望的な会話がなされた。

❶韓国・日本の音楽状況を知る為のシンポジュウムの開催DVDなどを用い作品をめぐっての討論会の開催。

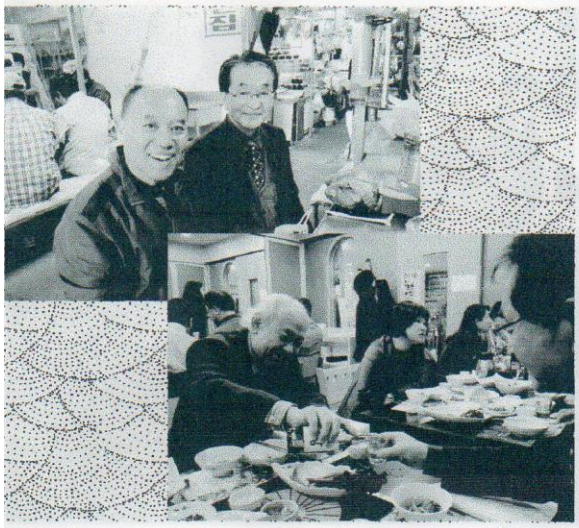
❷両国の文化を深く知る為、韓国の作曲家は日本を、日本の作曲家は韓国を訪れ文化遺産、自然などにふれその印象を作曲しあい日韓作曲家交流音楽会で公表する。

❸九州・沖縄作曲家協会と嶺南作曲家協会をリンクした上部団体を作る。

❹以上3点をそれぞれの協会の会議で検討する。

などが話され昼食会となった。

午後7時30分より熊本さんの作品を含む音楽会を鑑賞し打ち上げに参加した。



私事

＊私は両協会の第1回音楽会に参加の為（1992年？）テグに赴いたのであるが当時のクラシック音楽界に比べ、現在のテグのクラシック音楽界の発展振りに驚かされた。「オペラ劇場や音楽ホールなどの充実・若くて優秀な演奏家の活躍・音楽大学4校の存在・プロオーケストラの存在等」

＊テグ音楽界の発展に尽くされたウー先生（85歳）とイム先生（81歳）にお会いでき旧交を温め楽しい語らいのときが持てた

＊帰りは会長の車でテグ空港まで送ってもらったのであるが、その折、嶺南作曲家協会会長が「来年の交流のあり方は現状維持を希望、その折新会長（嶺南作曲家協会は会長は2年交代）同伴で日本訪問の意思を示された。

＊韓国内での交通費・宿泊費および宴会費は自前で払う意思を示したが受け取ってもらえず、結果として先方の行為に甘えることになった。

嶺南国際現代音楽祭に出品して

熊本 陵平

11月3日から4日に開催された嶺南国際現代音楽祭に参加してきました。

今回の大邱市来訪には二つの目的があり、一つは現代音楽祭に参加、もう一つは嶺南作曲家協会との関係の再構築にありました。後者はご同行頂きました田村会長の寄稿がありますので割愛させて頂きます。

大邱市は、いまだ発展途上の街。数年前に訪れた時よりも更に活気に満ちていて、どんどん新しい建物が建設されていっています。その街の有様と同じように、嶺南作曲家協会の会員たちも活気に溢れており、羨ましく思いました。

音楽祭一日目は、比較的若手の作曲家たちによる音楽会。演奏者もまた学校卒業したて或いは卒業してそれほど経っていないようで、舞台での演奏の動作にぎこちなさがありました。

二日目のほうでは、比較的ベテラン層の会員たちによる音楽会で、その中で僕の作品も演奏して頂きました

ドイツ人演奏家集団モザイクアンサンブル。正直なところ、日本の演奏家のほうが上手いです。勿論、先方にご配慮頂いて、彼らに演奏して頂いたのですが、リハーサル段階ではまるで練習していなかったようで、本番ではなんとか体を成すといった状況。なんとか無事に終わって良かったとホッとしました。

出品作品全体の在り方としては、およそ30年前の日本の状況のようでしたが、今の日本にはない熱気がありました。そこが羨ましく思う点で、我が九州沖縄作曲家協会も新会員や若手層を巻き込み、或いは外部と連携をとりながら、より活気のある会になることを願っています。

ギルド・ムジカ九州 第1回演奏会「オンドマルトノ・ルネッサンス」を終えて

原田 大志

昨年11月12日、福岡市箱崎にある「宮の杜ギャラリーもも庵」にて「ギルド・ムジカ九州」の初公演が行われた。

「ギルド・ムジカ九州」とは、現代音楽を主に演奏活動をする演奏家集団で、昨年結成されたばかりのもの。メンバーは緒方愛子(ヴァイオリン)、榎元圭(ピアノ)、山本朝子(ピアノ)、河野早紀(ピアノ)それに顧問として原田大志が加わった形でスタートした。

今回、北九州市在住のオンド・マルトノ奏者、西山恭子さんの協力も得て、以下のようなプログラムが演奏された。

① 宇佐美陽一「あをく くゆる」(1995)
・ピアノ／山本 朝子

② 田村徹「無伴奏ヴァイオリンのための三つの秋歌」(2016)
・ヴァイオリン／原田 大志

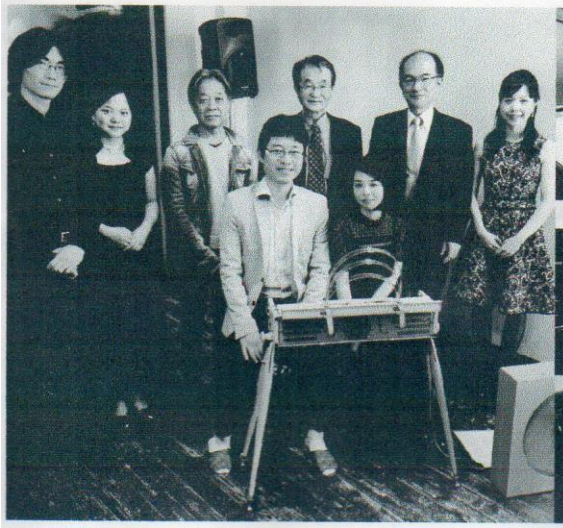
③ 井財野友人「ローズ・セレクション」(2014)
・ヴァイオリン／緒方 愛子
・ピアノ／榎元 圭

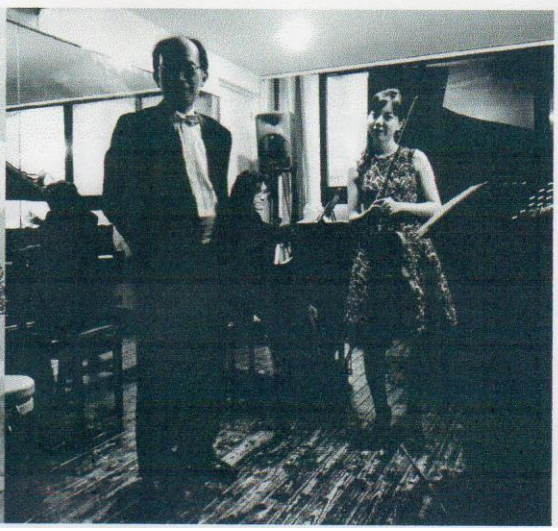
④ 米倉豪志「クロノガレキのエイリアス」(2016)
・オンド・マルトノ／西山 恭子
・ピアノ／榎元 圭

座席数が50そこそこの小さな会場だったが、その分、演奏者が至近距離に存在することで、音楽に対する親しみが増したとも言えるだろう。

また、演奏時間が短いため、宇佐美氏の提案により(井財野作品を除き)「演奏」「作曲者のトーク」「演奏」という形で、演奏が2回ずつ行われたこと、米倉作品の前にオンド・マルトノのデモンストレーション・タイムが設けられたことなどもあり、結果的に2時間を超えた公演だったにも関わらず、聴衆がなかなか会場から去ろうとしない熱気に満ち溢れた演奏会であったことは、この団体にとって幸先良いスタートとなった。

公演の模様はYouTubeで公開されている。作曲者の名前で検索すると恐らく見つかるはずなので、ぜひご覧いただきたい。





お知らせ

第37回 九州・沖縄現代音楽祭が長崎県にて開催決定！

2017年9月23日に、第37回九州・沖縄現代音楽祭が、長崎県は活水女子大学にて開催されることが決まりました。現在、嶺南作曲家協会会長を交えた日韓における現代音楽事情を語るシンポジウムや会員による演奏会が検討されています。詳細につきましては、決まり次第追ってお知らせ致します。